法人会誌　50 号
平成 27 年 4 月 15 日発行
ＮＰＯ法人グループもみじ事務局

特定非営利活動法人グループもみじ

法人理念
「ひとりの人を大切にした　まごころ介護」
「ひとりの人の可能性を信じる　まごころ介護」

平成 27 年度改正介護保険制度がスタートしました。グループもみじも制度改正に合わせて職員勉強会、ご利用者のご家族への説明会等を開催して参りました。もみじがそれぞれの方にとってのもう一つのわが家として、住み慣れた地域の中で在宅生活を続けたいという思いに寄り添う事に変わりはなく、これまで担ってきた人と人を繋ぐ宅老所の役割を後押ししてくれる改正であったかと思います。

社会保障の考え方としての「自助・共助・公助」の基本を踏まえながら、公的サービスだけに頼らず、地域の困りごとはみんなでお互いに助け合おうという「お互いさま」の気持ちを呼び起こすそんな宅老所運営を目指してまいります。

宅老所がつなぐ暮らしの場～認知症でも独り暮らしを続けるために

やすしげさん（75 歳）と宅老所の関わり方

やすしげさんのケアマネージャーから、宅老所みんなのあもりに相談があったのは半年ほど前。認知症で要介護 4 のやすしげさんはアパートで独り暮らしをされています。デイサービスを利用していたころもありますが、大きな声を出して家へ帰りたいと訴えることが多く利用が難しい状態でした。アパートでも大きな声を出されるので、近隣の方からも苦情の声が上がっていました。ご家族は皆さんに迷惑をかけるのも悪いし施設入所もやむを得ないとお考えでした。そんな状態のやすしげさんのケアを依頼された宅老所みんなのあもりはどうやって在宅生活を支えているのでしょうか。

独り暮らしを続けるだけの気力、体力をお持ちのやすしげさん。施設へ入所して 24 時間継続した見守り（監視的環境）が無くても大丈夫と判断し、大声を上げるのが主に朝方だというご近所の方の話から、早朝 6 時には職員が毎日自宅へ訪問。朝の身支度を手伝い宅老所みんなのあもりへ出発。到着後ゆっくり朝食を召し上がって頂きます。昼間はあもりの居間でのんびり新聞を読んだり、将棋を楽しまれたり、天気のいい日は散歩にも出かけます。入浴も済ませ昼食を終えると時刻は 13 時。この時間になると決まって家へ帰ると大きな声で要求されるのですが、やすしげさんの要求に応えご自宅へお送りしても、今度は外へ出たいと大声を出されることも度々。そこで午後はあもりの職員と様々な場所へお出かけをしてみることにしました。車の助手席に座ったやすしげさんはカーナビをテキパキ操作し、車窓の景色を眺めながらとても楽しそうです。職員もその日その日、ドライブコースを変えながら午後のひと時を過ごしています。夕方 17 時頃自宅へお送りし、職員が夕食用意してやすしげさんが召し上がった後、ベットに横になるのを見届けて一日が終わります。朝早く目が覚めた時はやすしげさんが携帯電話であもりに「早く迎えに来てくれ」と連絡をよこされることもあります。

宅老所の管理者がアパートの住民、ご近所さん、民生委員さん、自治会の方、交番、地域包括支援センターなどを訪問してやすしげさんを支えるケア会議を行いネットワークづくりもしました。やすしげさんが地域の中で住み続けられるような見守りの輪を広げることが大切です。状況が分からずに不安な住民の方も宅老所あもりがケアに入り、在宅生活を維持しているとわかれば、安心感が違うのではないでしょうか。現在のやすしげさんの生活は宅老所の関わりのウェイトが大きく、地域での暮らし、人との繋がりをどう広げていけるかが課題です。その人らしい生き方、暮らしを支える事は、どの方のケースを取っても一律で対応できるものではありません。柔軟な発想と、ご本人の気持ちを大切にしたお手伝いをができるよう、介護という枠の中だけでなく、地域生活のあらゆる場面で相手の事を思う気持ちを大切にした繋がりが育まれることを願い活動を続けています。

シリーズ　人生の旅路　その①

こころの「ふる里めぐり」～もみじのケアより

認知症ケアのひとつとしてグループもみじでは「ふる里めぐり」の活動を法人発足以来 15 年間にわたり続けています。認知症になり、一人では外出することが難しくなったお年寄りの心に秘めた思い出の場所や、逢いたい人のもとへ職員が共に出向くのです。長野市吉田にある「宅老所さくら」ではお年寄りから「おにいちゃん」と呼ばれ可愛がられている岡澤介護士が中心となり活動を行っています。「若い頃はやんちゃして随分両親にも迷惑かけちゃって～結婚すると決めた時、これじゃいかん！介護の道で頑張ろうと思ったんす。」なんて自らの過去を恥ずかしそうに語る岡澤介護士。プライベートでは 2 児のお父ちゃん。さくらでは毎日お年寄りに精いっぱいのやさしさをもって向き合っています。ちょっぴりいかつい風貌とは裏腹に、繊細なピアノを演奏しおどけて見せる彼の純粋なキャラクターにお年寄りがおおらかな気持ちで見守ってくれているそんな空気がさくらのほのぼのとした居心地の良さに表れています。

「ふる里めぐり」で大切なことは、お年寄りひとりひとりのオンリーワンの願いに向き合うことです。認知症の方の普段の生活の何気ない会話の中や、ご家族から直接お話を頂くこともあります。

シリーズ人生の旅路では、認知症のお年寄りと岡澤介護士のふる里めぐりを通して、誰しもが自分の過去という歴史を持ちながら今を生きているという、介護で相手と向き合う上で忘れてはならない思いを伝えます。

◆ 伊市（いいち）さんの大切な場所へ

伊市さんは大正 13 年生まれの 91 歳。宅老所さくらへ通って 4 年になります。若い頃から仕事一筋、真面目にコツコツと暮してこられたとてもきっちりされた方です。認知症で要介護 3 の伊市さん。毎日さくらへ通いながら在宅生活を続けています。日によって気分の揺らぎがあり、生活の状態が不安定になることがあり、職員は伊市さんに安心感をもって頂けるような支援をしたいと考えていました。伊市さんはさくらの職員に口癖のように「俺はね、長男ではないけれど男兄弟 4 人がみんな亡くなり自分が家を守ってきたんだよ。俺一人残っちまったから家を守っていかなくちゃなんねえんだ。」と話されます。強い責任感を感じさせる伊市さんの言葉が気になったので、娘さんに詳しく話を聞くと昔はしょっちゅうお参りに行き、和尚さんとも親交の深かった菩提寺である広徳寺にも、認知症になってここ数年は行っていないとのこと。そこで伊市さん、伊市さんの娘さんたち、岡澤介護士の 4 人でさくらから車で 40 分ほどにあるお寺へ行くことにしました。

顔馴染みの和尚さんと
久しぶりの再会を喜ぶ伊市さん

認知症になって何年もお寺へ行っていないから、記憶も曖昧で行っても分からないかもしれない…そんなお父さんの姿を見るのは辛い…と不安を抱えていた娘さんの心配をよそに、車がお寺に近づくにつれて車窓の景色を見ながら伊市さんが「ここは保科（地名）だな。久しぶりだな。」とよみがえる記憶を口にされていきます。日頃お出かけをしてもあまり車から降りたがらず、車内で待っていることの多い伊市さんですが、お寺に着くや颯爽と車から降りて、出迎えてくれた和尚さんに歩み寄りしっかりとあいさつを交わされ、久しぶりの再会に安堵されているように見えました。本堂に上がり和尚さんと一緒にお経を読まれお参りをされている姿に「お父さんを連れてこられて良かったです。」と娘さん 2 人も目に涙を浮かべておられました。

今では伊市さんと岡澤介護士で時おりお寺へお参りに出かけ、伊市さんの生活も以前より落ち着きを取り戻し、認知症の症状で不安になることも少なくなりました。伊市さん 91 歳。家長としての務めは生きる力なのかもしれません。

※ご家族の許可を頂き文章、写真を掲載しております。

もみじの宅老所～季節を感じて～

宅老所からお年寄りが消えた!?　皆はいずこへ･･･。

通いも･泊りも･訪問も組み合わせたケアを行うもみじの宅老所では、季節の移り変わりを肌で感じながら普通の暮らしの場面を大切にしたケアを行っています。春をさがしにあちこちへ出かけましたよ!(^^)!

宅老所みんなのあもり

「お昼にみんなで食べられるように沢山採らなくっちゃ。
よいしょ、よいしょ。」

「あ～春の香りいいわねェ。こんなにたくさん嬉しいわ。」

サクサクのふきのとうの天ぷら。ちょっぴり苦みのある春の味。

宅老所さくら

「一番偉そうなサルがこっち見ておっかない顔しとるわ。ハッハッハッ」

「ねえ～今日はどこに連れて行ってくれる？美味しいコーヒーも忘れないでね」

夕やけ小やけ

仲良しご夫婦。桜並木を手つなぎデート。「歩くのはたのしいねえ。」

桜を見上げて「心が和むわね～。」気持ちがほんわかピンク色。

「これはなんて種類の桜かな。誰か知ってる？」

宅幼老所夢いちもんめ

「畑の中の草は土起こしと一緒にすれば、それも肥料になるんだよ！」ふかふか土壌が完成です。

種イモを商店に買い出しへ。「こっちの方が元気がよさそうだねえ～」たくさん収穫できるかな。

「いつまでもきれいでいてね」気持ちをこめてお水と一緒に愛情シャワーを注ぎます。

歳の差 93 歳　ほのぼのタイム

友人と友人の子どもの祐くんと一緒に私の 96 歳になる祖母とお茶を飲んでいた時のことである。子ども好きの祖母ははじめて会う祐くんに「坊やおいくつ？」と尋ねた。ちっちゃな手で三本の指を突き出しながら、「みっちゅ」と恥ずかしそうに祐くんは答えた。しばらくして祖母が「坊やおいくつ？」と祐くんに尋ねた。祐くんは「あれ？また？」ちょっと不思議そうな顔をしながらも同じような仕草で「みっちゅ」と答えた。数分の後「坊やおいくつ？」祖母が三度同じ質問をした。何かおかしいよ…という雰囲気で祐くんは私達の方を振り返った。私は友人と顔を見合わせ、認知症の祖母は聞いたことをすぐに忘れてしまうという事を祐くんにどう説明したらいいかと考えていた。その時、祖母が自分の頭に手をあてながら祐くんに言った。「おばあちゃんね、ここがへんになってきちゃっているの。だからまた教えてちょうだいね。」その言葉を受け祐くんは「みっちゅだよ。おばあちゃん。」と祖母の目を見ながらしっかりと答えた。私や友人の心配をよそに、祖母と祐くんのやり取りはその後も幾度となく繰り返され、祐くんが「さっきも言ったでちょ」と軽く冗談を飛ばし、祖母も「ごめんごめん。」と笑顔で楽しそうに笑い合っていた。ふたりの間には、認知症だとか介護だとかコミュニケーションとは…なんて堅苦しい価値観はなく、自然であたたかくて、互いの存在を受け入れあっている空気が満ちていた。

コミュニケーションひとつとっても、何か構えて考えすぎるのではなく、もっとシンプルに人と人との間に流れる感覚をふわりと掴むことのできる心の余裕を持ち、自然に目の前の人を受け止め感じたいと祐くんの素直さと祖母のおおらかさに思う。（清水）

もみじ 15 周年記念フォーラム開催します！

15

とき：　7 月 11 日（土）14：00～17：00　入場無料

ところ：モリヤホール（定員 130 名）　長野駅前アイビースクエア 3 階

基調講演や、シンポジウム、復興支援ミニバザー、振り返るもみじの 15 年など計画中です。

皆さまお気軽に遊びに来てください！(^^)！

介護でお困りの事などお気軽にお問い合わせください。見学も随時受け付けております。

宅老所みんなのあもり	026-226-0903	宅老所さくら	026-244-7104
夕やけ小やけ	0263-87-2760	宅幼老所夢いちもんめ	0263-26-1680
居宅支援青もみじ	0263-87-1026		

ＮＰＯ法人グループもみじ　〒380-0941　長野県長野市葭ヶ淵 1861
電話　026-227-4425　FAX　026-217-7764　ホームページ　グループもみじ　検索

※バックナンバー掲載しています